

久木章江 谷口久美子 浅沼由紀 安野 彰

住生活デザイン研究室

本研究では、地域と連携した環境デザイン教育を実施するための第一段階として、学生が参加可能なプロジェクトを視察し、教育に取り組む準備のための現状調査を行った。主に下記4項目の検討・視察等を実施した。

- 1：渋谷区を対象とした商店街活性化計画の検討
- 2：農村で実施可能な学生参加型プロジェクトの検討
- 3：住生活体験施設の視察
- 4：空き家再生のための見学会視察

1：渋谷区を対象とした商店街活性化計画の検討

渋谷区の商工会議所に商店街の現状についてヒアリングし、その結果を参考に、商店街としての機能を維持出来ている地域を複数視察した。比較的活性化している商店街もチェーン店が増える傾向にあり、古くからある商店が閉店されている様子もみられた。なお、学生と商店街が一緒に地域活性化計画を行うためには、地域の人とコミュニケーションをとることが大前提であり、祭りなどのイベントに継続して参加し、関係を作っていくことが第一段階として必要になることがわかった。

2：農村で実施可能な学生参加型プロジェクトの検討

岩手県にあるやえはた自然農園にヒアリングを行い、学生による農村生活体験の可能性や、地産木材を使用した山小屋プロジェクトへの参加、釜石市

の菜の花プロジェクトと連携した空間デザインの可能性等について確認した。交通費は必要になるものの、合宿型の地域連携教育は比較的安価で実現可能になることがわかった。

3：住生活体験施設の視察

民家を改装した宿泊施設を視察した。近年、戸建て住宅の居住体験、土間空間や和室の実験がない学生も増えつつあるが、住空間の設計を行う学生には、このような施設を利用し、様々な住生活体験を教育に取り入れていく必要がある。

4：空き家再生のための見学会視察

長野市で行われている空き家再生のための見学会を視察し、プロジェクト主催者へのヒアリングを行った。視察した地域では、空き家を壊す前に再生する方向性を積極的に模索し、その地域の街らしさや歴史を残していく活動を行っている。持ち主と利用者の両者にメリットがある方法を検討し、地元の環境を守っていく取り組みの現状と課題について把握することが出来た。

上記4項目の他にも、益子町や大谷町地域における学生の情報発信地域の調査や宇都宮市役所へのヒアリング調査を行い、地域と連携したデザイン教育の資料を入手した。今後はこれらの検討・視察結果をもとに、住生活デザインや地域と連携した環境デザインの教育を具体化していく予定である。



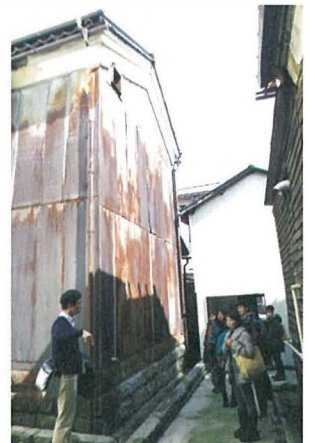
渋谷区某商店街の様子(閉店した店舗のある地域)



再利用を待つ空き家(改装前)



空き家を再生したカフェ

古民家再生の宿泊施設
(土間のある空間)

空き家見学会の様子